

| | |
|---------|---|
| 氏名 | 一ノ瀬 惠衣 |
| 学位の種類 | 修士(看護学) |
| 学位記番号 | 修士第96号 |
| 学位授与年月日 | 平成20年3月25日 |
| 学位論文題目 | 医療的ケアを要する小児慢性疾患児に関わる養護教諭 の不安とその不安を取り巻く状況 |

論 文 内 容 要 旨

| | | | |
|--|---|---------------|-------------------|
| ※整理番号 | 100 | (ふりがな) 氏 名 | いちのせ えい 一ノ瀬 恵衣 |
| 修士論文題目 | 医療的ケアを要する小児慢性疾患児に関わる養護教諭の不安とその不安を取り巻く状況 | | |
| <p>1. 研究の目的</p> <p>医療的ケアを必要とする小児慢性疾患児を、通常の学校に受け入れることによる養護教諭の不安とその不安を取り巻く状況を明らかにする。</p> <p>2. 研究方法</p> <p>本研究は質的帰納的研究方法を用いた。研究参加者は、医療的ケアを必要とする小児慢性疾患を、受け入れた経験のある養護教諭である。通常の小中学校に勤務する者 10 名に 1 人 1 回の半構成面接法による面接を実施した。研究参加者の都合の良い日時、場所を決定し研究目的、方法、面接の所要時間や倫理的配慮について文書を用い、口頭で説明を行った。研究参加者から同意書への署名を得た。データ分析方法は、研究参加者によって語らしめた内容の意味を切り捨てることなく、生かせるように、K J 法の手法を用い分析した。</p> <p>3. 研究結果</p> <p>面接によって得られた内容から逐語録を作成し、意味内容ごとに文節で区切ってコード化し、合計 1309 のコードを得た。K J 法の手法で内容や意味を圧縮し、研究目的にそって主題が明らかになるまで結合した。最終的に、医療的ケアを必要とする小児慢性疾患児が通常の学校に在籍することで、養護教諭が抱いた不安は、4 のカテゴリーと 12 のサブカテゴリーを抽出した。さらにその不安を取り巻く状況として 5 の上位カテゴリー、19 の中位カテゴリー、51 の下位カテゴリーを抽出した。</p> <p>抽出した 4 のカテゴリーは【力量への不安】、【ケアへの不安】、【管理体制への不安】、【患児の状況への不安】である。また 5 の上位カテゴリーは【患児の様子】、【養護教諭のケア状況】、【学校の管理状況】、【親の管理状況】、【関係者間の連携】である。</p> <p>4. 考察</p> <p>養護教諭は、医療的ケアを必要とする小児慢性疾患児が通常の学校生活を送っているという【患児の様子】により、時には高度な技術のケアをもとめられ、自ら【力量への不安】を抱いており、その内容は《ケアの技術》や《看護師免許が無いこと》への不安である。養護教諭は、医療的ケアを必要とする小児慢性疾患児を通常の学校に受け入れるための条件整備が不十分なままでの、患児への対応をもとめられており、患児の【学校の管理状況】を見ても十分といえず、そのような【管理体制への不安】が患児の《在籍》そのものの不安となっている。養護教諭は医療的ケアに直接関わることの恐れや戸惑いである【ケアへの不安】を抱いているが、その背景には【力量への不安】、【管理体制への不安】、【患児の状況への不安】がある。</p> <p>5. 総括</p> <p>様々な医療的ケアを必要とする小児慢性疾患児が通常の学校に在籍し、養護教諭が懸命に援助している実態が把握されたが、学校側の受け入れるための条件整備はできていない。今後ますます増加すると思われる、配慮を必要とする小児慢性疾患児に対しての養護教諭の役割を明確にし、看護師との連携と役割分担、必要な技術の研修等、条件整備を行っていかねばならない。</p> | | | |

(備考) 1. 研究の目的・方法・結果・考察・総括の順に記載すること。(1200 字程度)